



御油宿・赤坂宿の旅籠屋を思わせる管理棟



単調な街歩きと変わらないアスファルトの管理道路を分岐して丸太階段の山道へ

11 月になり、爽やかな秋の風から冷気を含んだ晩秋を思わせる気候になりました。定例会当日は夏を思わせるほど気温が上昇し、日中は汗ばむ陽気で、リーダーはお元気に半袖スタイルでした。小生もそれ程では無いが、アウターを脱いで身軽になり気分爽快にウォーキングができました。

11 月 19 日(木曜日)朝 8:35 に名鉄金山駅改札口前に集合し、男性 7 名、女性 12 名の合計 19 名の参加です。早速、何事かと呼ばれて、ビニール袋に入った大きな銀杏の実をいただきました。聞くとところによりますと庭に祖父江の公孫樹(銀杏の木)があるとのこと、さるお屋敷暮らしのご婦人と察しました。

ところで、ウォーキングに最適な 11 月は県内でも思い切って遠出して東三河まで脚を伸ばす事になりました。今回は先月の物見山にならない健脚コースは里山低山の宮路山です。車窓から見る宮路山は椎、欅等の照葉樹林に包まれ深い緑のお椀を伏せたような雄姿で、標高 361m の低山ながら存在感があり、名電赤坂からは真近に全貌を見ることができ、登山意欲が沸き起こります。

名鉄御油駅に 9 時 45 分に到着しましたが、確認の手違いで遅れた方を待つことになり、コンビニに寄りランチの調達や、御油の松並木資料館を見学しながら時間調整を行いました。

御油宿を通り抜け、石段を登り東三河ふるさと公園入口で、皇帝ダリアの大きなピンクの沢山の花に我々は歓迎されました。この時期は花よりも紅葉が楽しめます。ドウダンツツジをはじめ、モミジ、公孫樹など赤や黄色に色づいた植栽樹木に目を奪われます。遅れる事 30 分程で管理棟前に全員合流しリーダーの注意事項をお聞きした後、ゆっくりアス

ファルト舗装の管理道路を上ります。単調な管理道路に飽きて、三河山野草園の東屋で小休止した後、丸太階段の樹林トンネルコースを辿ります。管理道路と違い丸太階段の急登で少し息が弾みます。皆さん疲れた頃に三角点、標高 194.7m の山頂のツツジ園の展望台に到着です。展望台は四隅の尺柱の木造の堅固な切り妻屋根の 2 階家です。それは戦国時代の物見櫓を思わせる堂々たる展望台でした。南側を眺望すれば、遠くに渥美半島の衣笠山や、竜頭山のシルエットを望むことができました。また、手前を俯瞰すれば右手にはラグーナ蒲郡のヨットハーバーが、左には御津町の風力発電の 3 枚のプロペラがゆっくりと回転しているのが手に取るように見えました。渥美湾の海原は太陽の逆光にキラキラ輝き一面明るく白く見えます。北側に眼を移せば奥三河の山並みが見える他、右手に三河本宮山の尾根稜線や、三角点のあるアンテナ基地を確認する事ができました。

展望台の足元はツツジの低木で覆われていましたが、今の時期は季節を違えて咲いた花がちらほらと見受けられる状態でした。

展望台でのランチタイムは三密を避けて我々だけでベンチをゆったり占有したため、他のハイカーの方には幾らかご迷惑をかけ申しわけなく思いました。

小生は何時もの様に缶コーヒとカロリーメイトと柿の種のささやかなランチですが、食後多くの奥様からお煎にキャラメル、甘納豆をいただき小学校の遠足のおやつを思い出しました。

皆さん渥美湾の眺望を満喫して美味しいランチとお友達との交流は名古屋から電車の乗り継ぎなどして来た甲斐があり、久し振りのコロナ禍の解消になった事でしょう。





展望台でランチタイムは至福の時間をいただいても美味しくて食欲旺盛

ランチタイムが終わったところで、展望台入口階段で全員の記念撮影をしました。今日は何時もの専属カメラマンはお休みで俄かのスマホカメラで撮影しました。

この後、未だ昼過ぎで十分宮路山の登攀は余裕がありますので健脚者を募りましたが、ご希望の方は見えず、残念ながらストックも軽登山靴も熊鈴も無用になりました。

さりながら気を取り直して、下りのコースは周回とし、花の未だない樺の森の道を通ってロックガーデンに寄りました。巨石の花崗岩の石組で、その間に蕾を付けた大きな西洋石楠花が植栽されており、五月の連休が見頃ようです。下に下って管理棟の向かいの回遊式の修景庭園に寄ります。そこの大きな池には蓮の花が終わり残念ながらすっかり枯れた状態でした。

この時期は、大きく成長した園芸種のもみじが見事に染まり一部の紅葉は緑と紅葉のグラデーションも見られました。

池の周りは、剪定された大きな立派な樹形の松が多数植栽され、松の緑と紅葉の樹木のコンビネーションに、奥三河の山並みの借景を取り入れた、雄大な日本庭園を創っていました。それらの池の修景を愛でながら東屋での、おしゃべりは日頃のストレス解消になります。13時52分御油駅乗車の予定で13時過ぎにふるさと公園を後にして足取り軽く東海道御油宿に向かいます。



つつじ園展望台で全員集合の記念撮影



展望つつじ園の展望台から南側を展望 真ん中の山は御津山、その先は渥美湾 その先は渥美半島の山並み

小生は赤坂の松並木を熱心に眺め、高札を読んでいる内にタイムスリップして気が付いた時は、心は時空を超えて小生の他、男性と女性のお二方がグループから外れ、弥次郎兵衛・喜多八と鳥追い姐さんの三人になっていました。はぐれた事も忘れて、気を取り直して街道を赤坂宿に向かいます。御油宿と赤坂宿の間は半里弱です。初めて見る御油の松並木は案内看板によれば、【慶長9年(1604年)徳川幕府の道路政策として、奉行の大久保長安によって植樹されました。松並木は東海道を往来する旅人たちに、夏は緑の木陰で陽射しを遮り、冬は寒い風や雪から守りました】初めて見る小生は長い歴史を感じ、現在ある300本の長寿の松が永久(とわ)に生きることを願いました。高札場を右手に鍵の手に曲がり名電赤坂に向かいました。その時一瞬、小生は偶然に腰に矢立道中筆を挿した十返舎一九が旅籠屋の「よらまいかん」に入るのを目撃しました。弥次喜多と鳥追い姐さんは名電赤坂駅14時20分に乗車して、小生は16時に帰宅出来ました。リーダーからのメールによれば、皆さんは御油駅発13時52分発に乗車して無事帰路につかれたようです。

因みに今回のウォーキングでは我が家の本願寺町で、総歩数:13,500歩、歩行距離:9.5km、歩行時間3:00でした。

(撮影・記 31期 宮田岩男)



御油の松並木で弥次喜多と鳥追いの姐さん